

森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

団体名： 学校法人 YMCA 学院高等学校

プログラム名： 森林体験（YMCA学院高等学校）

プログラムの目標	①多様な森林の機能を理解する ②森林を守ることについて、きちんと考える（日本と世界の森林の違い） ③実際に森林に入り、間伐活動を体験する ④日頃、森林で活動しているボランティアや仕事をされている方から話を聞き、学ぶ
プログラムの概要	50分×8コマ（50分×4コマ 教室座学、約4時間 野外実習） 座学では、森林の機能や日本と世界の森林の違い、日本の戦後の森林の歴史を学び、野外実習は間伐体験を中心に行う。

プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
2 (1日目)	森林について知ろう	
	森林の特徴や機能、日本と世界の森林の違いと状況を座学で学ぶ	特に森林が持つ多面的な機能については、時間をかけて、生徒たちに考えさせて、森林が自分たちの生活とは切り離されたものではなく、気づいていなかったかもしれないが、森林からたくさんの恩恵を今も受けていることを実感させる。
4 (2日目)	野外実習（間伐体験）	
	間伐など森林の管理作業を体験する。市民団体の方に受け入れてもらい、お話や交流も行う	座学で学んだことを、実際に体験し、実感する。また、市民団体の方に活動のお話を聞いたり、森を紹介してもらったり、木の特徴を説明してもらう。森林の問題を解決したいと思い活動、仕事をされている人の話を聞くことで、そういう仕事の選び方や時間、お金の使い方があることに気づいてもらう。
2 (3日目)	日本の森林の歴史や仕事を知ろう	
	戦後の日本の森林の歴史を知る。ゲストスピーカーとして、箕面森林ふれあい推進センターの方の話を聞く	1日目で今の森林の状況を理解したが、どうしてそこに至ったか、今まで日本は森林をどんな使い方をしていたかの変遷を知る。その上で、国有林の管理をしている箕面森林ふれあい推進センターはどんな仕事をし、どんな人が働いているのかを知る。センターの方には仕事内容だけでなく、どうしてこの仕事を選んだのか、働いていてどう感じているかなどを話してもらう。

森林環境教育の視点	1 感性的経験	感性的な内容－森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など			
	2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容－植物や動物の生態など			
	3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容－森林の働き、保安林など			
	4 現状・課題	森林の現状に関する内容－森林の荒廃、人手不足など			
	5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容－森林整備、育成、維持、管理など			
	6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史－その土地での歴史、薪炭林、炭焼き			
項目番号	活動の分析（森林環境教育の視点） 上位3項目				
3 多面的	森林からどんな恩恵を受けているか、一人ひとりにこたえてもらった。森林が水、空気、災害防止とつながっていることに気づけた。また、薬や医療という面でも恩恵を受けていることは、生徒によっては非常に身近に感じるようだった。少し前は、森林でエネルギーを得ていたことに関して は、かみくだいて話さないと、生徒たちにはピンとこない。				
4 現状・課題	木を切ることは悪いという意識は、ほとんどの生徒にあるが、日本と世界の森林は違い、森林を守ることを考えるとき、どこを森を守るのかということを意識することが重要であることに気づいてもらう。座学だけでは忘れてしまうが、実習もするので、特に日本の森林の課題については、ある程度の認識を定着させることができる。				
5 管理・維持	実際に間伐を行うことで、具体的なやり方や管理維持している人たちの苦勞、やりがいの話も聞ける。その中で、今の自分、これからの自分に何ができるのか。どうかかわっていけるのかを考えるようになる。				
ESDの要素（生きる力）		能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
			2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながりを尊重する態度
			3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
			4 コミュニケーションを行う力		
項目番号	活動の分析（能力・態度の視点） 上位3項目と実施後の変化				
3 多面的	「木を切ってはいけない」という意識が定着している生徒たちに、なぜ切ってはいけないのか、森林とはどういうものを色々な方向から考えることで、ただ「〇〇をしてはいけない」「〇〇をしよう」というキャンペーン的な教育から脱却し、状況や場所を知ったうえで様々な方向から考える力を養う。				
6 つながり	自分と森林はつながっているという意識を森林の多面的な機能を掘り下げの中で感じてもらう。森林が自分とどうつながっているのか、森林がないとどういう問題が起こるのか、改めて考えることで、生徒は色々な発見をしていく。				
7 参加	のこぎりや斧をつかう間伐作業に、最初は難色を示す生徒もいる。また、互いに協力しないとできない作業もある。しかし、野外で一定の時間をすごしていると、心がほぐれ、やったことがないことに挑戦できたり、話したことがない人とも一緒に作業ができたりする。そのことで、今までより前向きになれる生徒もいる。				
実施後、参加者の変化	野外での活動は、初めてのことも多く、生徒たちの多くにとって印象に残る授業である。また、ゲストスピーカーの話も、多くの生徒が親や教師以外の大人との接点が少ないので、刺激も大きい。レポートを見てみると、多くの生徒が、森林の認識を変え、大切にしたいと思うようになり、また、ボランティアなど森林で活動することが身近になっているように思う。				

学習指導要領との関連（上位3項目）		
教科	項目	学習内容
	高校の授業の中で、特に学習指導要領意識はしていない。不登校だった生徒もいるので、積み立てた学習の一環というよりは、どちらかというと、学校の生徒の傾向や個々の生徒に合わせるように意識している。	
プログラムでの学校との連携（取組内容）		
学校の授業の一環として行っている。		
プログラムでの地域との連携（取組内容）		
大阪府下で活動するNPO法人森林ボランティア竹取、NPO法人里山倶楽部の方に実習の受入、活動の紹介や活動への想い、困っていることなどのお話してもらっている。また、箕面森林ふれあい推進センターの方に森林のお仕事について話をしてもらっている。このプログラムは学校だけで行えるものではなく、市民団体などの協力のおかげで、開催できている。		
プログラムの今後のめざす方向・展開		
森林の基礎的知識だけでなく、このプログラムでは、人生の選択肢の一つとしての森林活動についても意識して組み立てている。今後はこのプログラムだけでなく、学校の進路関係のサポートにおいても、情報を提供していく他、森林を仕事にしたり、森林活動を継続したいと思う生徒への情報提供やサポートも強化していければと思う。		
現状での課題など		
もう少し幅広く森林に関わる仕事を見せたいという思いがあるが、それらの情報収集や準備ができていない。また、できるだけ生徒に身近な世代で、森林に関わる仕事をしている人の話を聞かせてあげたいが、人探し、実習地探し、コーディネートが難しい状況がある。そういった情報が集まっているところや相談に乗ってくれるところがあれば、非常に助かる。		
質問事項、知りたい情報など		